

〈座談会〉

就職活動を語る

百年に一度の不況を乗り越え、見事二〇一〇年の就職戦線を勝ち抜いた本大学院生数名が、ここに集った。就職氷河期再来といわれる中、後輩へのエールを込め、就職活動の経験を語った。

司会…内定先とそこを選んだ理由は？

A…内定先は、中小企業基盤整備機構です。

なぜ選んだかというと、私の故郷は繊維生産が盛んな土地で、同級生にも町工場の子がいてという環境で育ちました。

九〇年代は、繊維生産が中国などの海外に移転する時代だったので、そういう人たちが苦境に立たされる姿を目の当たりにしてきました。中には非常に不幸な結末に至ることもあったので、なんで人が作り出した経済に人が振り回されなければならないんだろうなというように思っていました。だから実際、経済の荒波

に直面する人達に直接サービスを提供できるような職業を志し、そういった仕事ができる場所を選びました。

B…私は防衛省にいくことになりました。理由は、大きく二つあります。一つ目は、自分の興味関心に沿っていたためです。自分が一番関わりたい安全保障に特化して専門的に関わっていきたいと思いました。二つ目は、防衛省という組織に私が合っていたためです。防衛省は他の省庁より新しく、これから伸びていく成長官庁だと思います。新しい組織と一緒に作っていくというのは、面白いことだと思いましたし、職員の方々も合う人が多いと感じました。

C…内定先は富士通総研で、コンサルタントをする予定です。コンサルタントを選んだ理由は二つあります。一つは、色々なものを見たり、全然自分が知らない話を聞いたりするのが好きで、仕事でも色々な世界を見ていけるようなことがしたいなと思ったことです。もう一つは、問題解決能力を身につけたいと思ったことです。コンサルタントの仕事は、自分で問題解決案を考えていけると思ったので、ぴったりだと考えました。その上で今の

会社を選んだのは、雰囲気合っているんじゃないかなと思ったからです。

D…(内閣府内定) 確かに、雰囲気あってありますね。僕の経験からいえば、雰囲気が合わないところでは採用してくれないのかなと思います。

司会…なぜ公務員、独立行政法人、民間を選んだのか？

E…(住友信託銀行内定) 人の役に立ちたいということ、相手と直接面と向かってやりとりしたいということ、顧客と長い間付き合っていきたいということ、この三つの柱を突き詰めて就活を進めた結果がたまたま民間でした。最初から、公共部門か、民間かという括りで就活はやっていませんでした。民間に就職したのは結果論です。

A…僕もE君と一緒に、公務員、独立行政法人、民間のように分けて仕事を選んだというわけではありません。「将来のなりたい自分像」に合わせて職場を選びました。B…私も同じです。私は、外交・安全保障に興味がありました。これらをできる場所はどこかと考えれば、メインでやっているのは国になりますので、国家公務員

を志望しました。ただ、民間も受けました。もし民間に行ったとしても、楽しんで働けるだろうとは思っていました。

F…(京都市内定)なぜ公共部門を選んだかと言うと、世の中の流れで自分の人生が左右されるのが嫌だという思いがありました。それだったら、自分が世の中の流れをいじっていきたくないと思ったからです。

C…世の中の流れを変えられるのは公務員だと指摘されましたが、私はそれは民間でもできると思います。霞が関インターンの際に、自分の提言を職員の方に言っても、組織のしがらみとかで、「いやあ難しいんだよ」と言われました。世の中に物申せるのは、逆に外の人だと思います。

司会…どのような就職活動をしたのか？

D…説明会に行き始めたのは、一月ぐらいからで、民間のエントリーシートは、年明けから出していった、面接が始まったのは三月だと思います。受けたのは、二〇社ぐらいですね。公務員試験との両立に関しては、秋口から少しずつやっていて、二月・三月の就活がない日は、勉強に一日何時間かは確保しようと努力していました。四月は、ほとんど勉強してい

ました。やはり公務員試験の勉強をするとなると、たくさん企業の受けるのは難しいと思います。ただ僕の感覚では、一〇社くらいだったら受けられるのではないかと思います。

E…回った業界というのであれば、なんとか業界という括りの名前がついている業界はほぼ全部行ったと思います。それは偏見でこの業界には興味がないと思っただけじゃないのかという疑問が自分の中であって、その確認作業を行いたいと考えたためです。実際に受けたのは、面接の練習程度だと思っていた会社も含めて、全部合わせると二〇社前後だったと思います。もし公務員試験との両立を考えると、会社数は、D君が言うように一〇前後、業界は一つか二つに絞ったほうが良いと思います。

司会…公共政策大学院生であることは、就活中どのように作用したか？

B…まず、民間企業に関して言うと、「公共政策大学院だから公務員志望なんですよ」って決めつけられることが多いですが、その企業でやりたいことをちゃんと考えておけば、問題無いと思います。官庁で

は、公共政策大学院で専門的なことをやってきているんだから、と官庁訪問で専門的なことを突っ込んで聞かれました。官庁を受ける人は、きちんと準備をしていく必要があると思います。

F…「何勉強してるの？」って聞かれたとき専門性の追求より、実践に重きを置く公共政策大学院はしんどいね、というのはあると思います。ただ、実際問題、民間企業は勉強内容にそれほど関心がある訳ではないので、そんなに気にする必要はないと思います。

司会…公共政策大学院で学んだことは就職活動でどう役に立ったか、また今後どう役に立つと思うか？

D…それまでは法律にしか興味がなかったのですが、これまで関心のなかった分野にも興味を持つようになりました。就活だけに限りませんが、視野が広がったことはプラスだったと思います。

F…志望先を選んだ理由は労働政策や社会保障に関心があったからです。それは公共政策大学院に来てから興味を持つようになった分野です。興味を持ったのは授業でというよりも、アルバイトや自主ゼミ

や他の学生との会話等を通じてですね。

人と話すことで、自己の意見や興味関心を形成できました。政策論争できることがこの大学院の特徴で、それは学部では難しいと思います。そうした議論を通じて、労働政策に関心が生まれました。

C.. 授業で扱った内容そのものが直接というよりは、考え方や勉強をする過程の方が今後役に立つと思います。

E.. 僕も授業で扱った内容が直接と言われると…。ただ、授業の度に問題を設定し、その解決を考えるトレーニングができると思います。結果、社会人として求められる、現状の問題を見つけ、その解決策を見つける力を身につけることができ、それを自分たちのなかで「無意識化」できるレベルにまで高めることができると思います。それがCさんの「授業で扱った内容そのものが直接というよりは」っていう発言に繋がっているんじゃないのかなと、僕は思いました。

司会.. 就職活動において、やって良かったこと悪かったことは？

C.. 人に会うのは、大事だと思います。就活に限らず、勉強に関しても、現場の人の

話を聞くとか、存分にこの京大公共政策大学院生っていう身分を利用するべきだと思います。

F.. そうそう。イメージをつかむというものもあるし、他人と喋らないと自分ってわからないですね。自分で自分は認識できないから、他人から見ってもらうことが必要だと思います。

C.. 自分の良いところと悪いところを指摘してもらったり、志望動機も見てもらったほうがいいと思います。そのときには、仲がいい人だけでなく、あまり自分のことをよく知らない人にも見てもらったほうがいいと思います。精神衛生上も、一人で悶々とやらないほうがいいと思いますし。

F.. 就活以外のこともしっかりやったほうがいいですね。勉強や学生活動でも、就活を意識しないでしたほうがいいと思います。就活のためにする学生活動は、やっていても仕方ないですし、私はしっかり勉強しているという自信が精神安定にもつながると思います。

E.. 他に気をつけた方がいい点としては、スケジュールをきつきつにしないことです。前のセミナーが伸びた場合に、次のセミ

ナー会場に汗をかいた状態でぎりぎりの到着になってしまうことや、座席が後ろになってしまう場合があります。なので、セミナーとセミナーの間はできれば二時間くらい空けるようにしたほうがいいと思います。

F.. やらない失敗はやめたほうがいいけど、やった失敗はしてもいいと思います。いい経験になると思いますので。

司会.. 最後にこれから就職活動をする人にアドバイスをお願いします。

C.. いろんな人が、就活をしてこれが良かった、あれが良かったと言いますが、それは参考程度に留めて、自分のやり方を見つけないといけないと思います。

A.. 結果よりも過程のほう的大事ではないかと思います。過程を大事にしたらずと結果はついてくると思います。

B.. 最後まであきらめない、ということは本当に大事だと思います。私には無理じゃないか、できないんじゃないかって思うことがあると思います。ですが、最後までわからないので、不安になったら周りの人や先輩に相談すればいいですし、最後まで思う存分やればいいと思います。